

● 教室(診療科)の特色 ●

日本口腔外科学会認定指定機関、日本顎関節学会認定研修機関ならびに厚生労働省歯科研修指定機関です。高槻市、茨木市、枚方市、長岡京市、摂津市とその近接地域における歯科口腔外科の中核施設であり、口腔腫瘍、顎顔面外傷、嚢胞性疾患、口腔粘膜疾患、顎関節疾患、顎変形症、歯性感染症、全身管理を必要とする歯科疾患、睡眠時呼吸障害の歯科的治療など、すべての顎口腔領域の疾患を取り扱っています。

年間の外来初診患者数は約3,500人、1日平均外来患者数は約100人です。埋伏歯抜歯、嚢胞摘出、歯根端切除などを中心とした外来小手術は年間1,100例あります。年間の入院患者は250例でその主なものは口腔腫瘍、嚢胞性疾患ならびに炎症性疾患などとなっています。



植野 高章(うえの たかあき)教授(科長)

■ 専門分野

口腔外科、顎骨欠損症例への骨移植術とインプラント外科治療、口腔衛生管理

■ 職歴

平成 5年 7月 岡山大学歯学部助手

平成21年 2月 福井大学医学部准教授

岡山大学歯学部非常勤講師

米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校歯学部客員教授

平成23年 9月 大阪医科大学教授

■ 主な学会／専門医資格

(社)日本口腔外科学会専門医・指導医、日本口腔インプラント学会暫定指導医、

日本がん治療認定医機構教育医(口腔外科)、日本顎顔面インプラント学会指導医、

日本口腔ケア学会

■ 研究課題

成長因子を応用した骨の再生医療とその組織学的評価法開発、咬合機能の回復と全身状態の評価、

口腔粘膜疾患、悪性腫瘍治療患者の口腔衛生管理に関する多施設共同研究

● 診療科の概要・特徴 ●

当科では総ての口腔疾患を扱っていますが、口腔腫瘍、矯正治療(顎変形症)、インプラント治療、顎関節症、口腔粘膜疾患、口腔ケアに関する特殊外来を行っています。特にインプラント治療に関する特殊外来では一般的な歯牙欠損症例だけではなく、外傷による歯牙欠損、悪性治療終了後の機能回復のための応用も行っています。また、口腔ケア外来では、近年、嚥下性肺炎、ビスフォスフォネートによる顎骨壊死、あるいは全身健康(循環器疾患、糖尿病、妊娠など)と口腔環境との関係から、力を注いでいます。

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	研究課題
寺井陽彦(講師)	(社)日本口腔外科学会専門医・指導医	難治性口腔疾患におけるカンジダの関与
橋口範弘(講師)	(社)日本口腔外科学会専門医・指導医	咀嚼機能と顎骨形体
有吉靖則(講師)	(社)日本口腔外科学会専門医・指導医	口腔領域の画像診断、熱外中性子捕捉療法
奥富直(助教)	(社)日本口腔外科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構教育医(歯科口腔外科)	咀嚼機能と顎骨形体
他助教2名		

■連絡先：大阪医科大学口腔外科学教室 TEL:072-683-1221

■ホームページ：http://www.osaka-med.ac.jp/deps/ora/

初期臨床研修プログラムの特徴

大阪医科大学附属病院における歯科医師国家試験合格後の2年間(1年間は歯科臨床研修、後の1年はレジデント)の初期臨床研修の目的は、研修プログラムに基づいて、関連領域に関する基礎的知識と基礎的医療技術および歯科医師としての態度を修得することにあります。

この初期臨床研修は専門医養成の研修コースの一部でもあり、2年目以降の研修課程につながるものであるが、単に専門領域の修練に留まらず、より総合的な広がりを持った研修を基本とします。

研修内容と到達目標

<1年目>

前期の前半3月は「医療面接」、「総合診療計画」ならびに「予防・治療基本技術」について研修を行う。前期の後半3か月間は「応急処置」、「高頻度治療」ならびに「医療管理・地域医療」について研修を行う。1年目後期では、前期で習得した知識をさらに繰り返し習熟させる。具体的には外来ならびに病棟を担当し、指導医のもとで繰り返し習熟させる。

<2年目>

2年目は麻酔科(6か月間)、場合により他の隣接科での研修を行う。1、2年目を通じ以下の事柄に積極的に参加することが望ましい。

- ①抄読会。
- ②症例検討会。
- ③各非常勤講師の研修医に対する専門分野に関する講義を聴取する。
- ④学会への参加ならびに発表。
- ⑤論文発表

研修期間中に1編の論文を作成し、医学雑誌に筆頭者として投稿する。

研修病院群

研修は単独型であるので研修病院への派遣はないが、2年目に関連病院での研修を行う場合がある。

関連病院

市立枚方市民病院／北大阪警察病院／藍野病院／青葉丘病院



評価方法

指導医は随時し、研修医の到達目標を援助する。また、毎週月曜日の8時15分からの講師以上の会議で随時指導方針などの再確認などを検討する。また、1年目前期ならびに後期終了後指導医の協議により評価を行う。

なお、2年目の麻酔科終了後においても独自に評価を行う。

具体的には、医療面接、総合診療計画、予防・治療基本技術、応急処置、高頻度治療、医療管理・地域医療について評価する。



外来診察室

週間スケジュール

月曜日	外来診療 病棟処置
火曜日	外来診療(一般歯科)、中央手術 入院カンファレンス
水曜日	外来診療、外来手術 病棟回診
木曜日	外来診療、外来手術 病棟処置
金曜日	外来診療、中央手術 病棟処置
土曜日	外来診療 病棟処置

後期研修プログラムの特徴

国が定めた歯科における研修期間は1年間です。そのため大阪医科大学では便宜上、2年目も初期研修プログラムをくんでいて(この件については各医科大学、歯科大学によって異なる)特徴のあるものとなっています。

より高度の高く、また専門性のある疾患の診断・治療を担当し、その中から専門分野の知識と臨床能力を身につけるとともに、研究分野に進んでいきます。従って、院生になることが望ましいといえます。

研修プログラム

<3年目～4年目における研修方法>

プログラム責任者: 植野 高章

研修内容と到達目標

外来ならびに病棟において主治医となり、積極的に臨床に携わる。特に(社)日本口腔外科学会における専門医制度での専門医資格取得の基礎となる。

プログラムに参加する医療機関等

大阪医科大学附属病院 歯科・歯科口腔外科

取得できる認定医・専門医

(社)日本口腔外科学会専門医

日本顎関節学会専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医(歯科口腔外科)

参加学会等

(社)日本口腔外科学会／日本口腔科学会

日本口腔腫瘍学会／日本口腔粘膜学会

日本小児口腔外科学会／口腔診断学会

The Hard Tissue Biology Network Association

international Association of Oral and Maxillofacial Surgery (IAOMS)

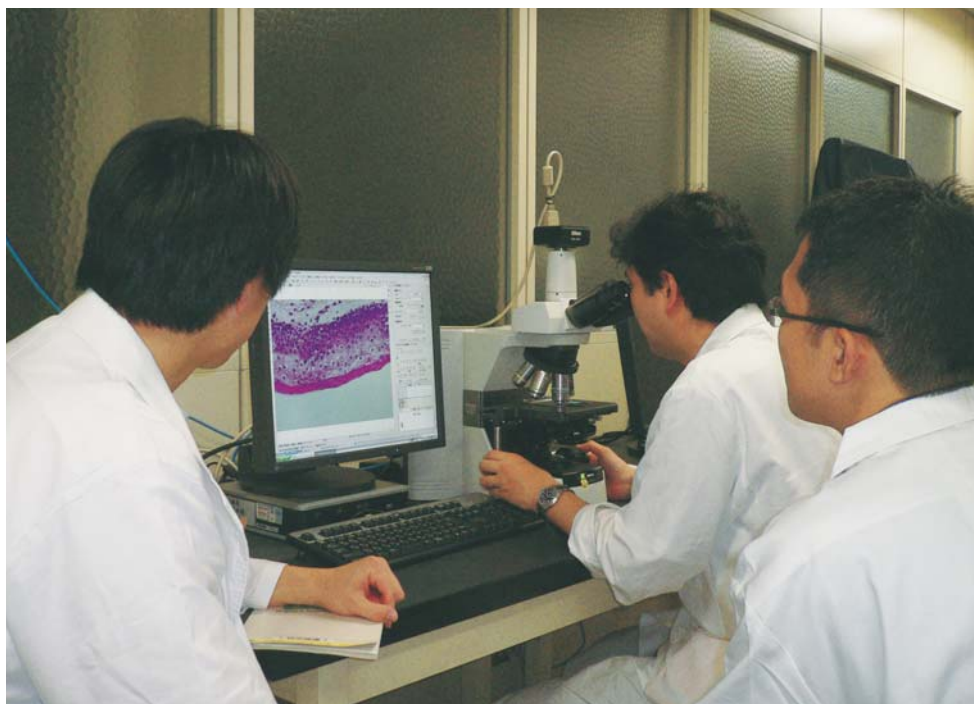
国際フッ素学会

European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery

International Congress on Neutron Capture Therapy (ICNCT)

主なる関連病院

市立枚方市民病院／北大阪警察病院／藍野病院／青葉丘病院／藍野花園病院



実験風景

大学院における研究活動

口腔疾患全般にわたって、医師、歯科医師として必要な幅広い理論と実際を身につけるとともに、それらを裏付けるための臨床的ならびに実験的研究を行います。臨床教育においては、幅広い知識に基礎をおいた高度な専門医療を行えることを目指します。一方、研究においては、臨床における問題点を解明するために、臨床的ならびに実験的研究を行い、日常臨床に寄与することを目的とします。近年高度化する研究への対応のため、他大学および他研究施設と積極的に交流することを推奨しています。

現在の研究テーマとその概要並びに展望

㊦咀嚼機能と顎骨形態ならびに生活環境に関する研究

アパタイト結晶の配向性に注目し、骨質の評価として微小領域X線回析法を用いて、咀嚼の影響による下顎骨の微細構造の変化を解明し、インプラント応用に寄与することを目指す。一方、咀嚼機能が生活環境に及ぼす影響について臨床的研究を行っている。

(大阪大学大学院・工学研究科・マテリアル生産科学専攻分野、大阪医科大学衛生学・公衆衛生学教室と共同研究)

㊧熱外中性子捕捉療法に関する研究

進行癌、再発癌などの難治性癌に対する治療法としての熱外中性子捕捉療法における適応症の決定ならびに治療成績向上のため、臨床的および臨床的研究を行っている。

(大阪医科大学脳神経外科学教室、京都大学原子炉実験所、広島国際大学薬学部と共同研究)

㊨口腔疾患の早期診断に関する研究

プロテオーム解析による口腔癌、口腔良性疾患に対する特異性を検証し、その早期診断法を開発することを目標としている。

(国立がんセンター化学療法部と共同研究)

㊩画像診断に関する研究

MRIは口腔領域においてかなり応用されている。そこで口腔領域の各種疾患におけるMRIの有用性につき検討し、診断能力の向上と処置方針の決定に寄与することを目的としている。また、診断能力の向上のために、補綴物ならびに充填物とアーチファクトとの関係を実験的に分析している。

㊪睡眠時呼吸障害の歯科的治療に関する研究

睡眠時呼吸障害における歯科的治療において、効果のある口腔内装置を作製する目的で、睡眠時呼吸障害患者における顎骨形態をセファログラムで分析するとともに、顎態模型により歯列形態を分析している。

㊫口腔ケアに関する研究

口腔疾患患者においては、疼痛、開口障害などにより口腔清掃状態が不良な症例が多い。また、口腔状態が不良な症例に嚥下性肺炎が発症する確立が高く、口腔の状態と全身疾患との関連性が示唆されている。さらに近年、ビスフォスフォネート系薬剤を投与され、口腔環境が不良な患者に骨壊死が発症することが報告されている。そこで、口腔清掃状態と全身状態との関連を中心に、口腔清掃(口腔ケア)の意義を明らかにすることを目的としている。

(大阪医科大学衛生学・公衆衛生学と共同研究)



パノラマ風景

㊬難治性口腔粘膜疾患におけるカンジダの関与に関する研究

難治性口腔疾患におけるカンジダの関連を検討する目的で病変部の培養検査と迅速細胞検査を行い、その結果と抗真菌剤の治療結果からカンジダ関連疾患の診断法の確立をめざして検討している。

㊭顎関節症の研究

顎関節症の発症機構を解明するため、ヘリカルCT-Tooth Pixを利用し、顎関節症患者の関節部の分析を行っている。また、当教室で開発した機能歯評価値を用いて、機能歯年齢を算出し顎関節症の評価の指標として活用することを試みている。



診療風景